

# 「IgA 腎症における扁摘ステロイドパルス療法の有効例、再燃例、未施行例の比較研究」へのご協力をお願い

ー平成 14 年 1 月 1 日から平成 26 年 12 月 8 日までの間に、岡山大学病院において腎生検\*で IgA 腎症と診断された患者さまへー

\*腎生検とは、腎臓の組織を針で一部採取して、顕微鏡で調べる検査法です。

研究機関名	岡山大学	慢性腎臓病対策腎不全治療学講座	教授	杉山 斉
責任研究者	岡山大学大学院医歯薬学総合研究科	病態制御科学専攻病態機構学講座		
分担研究者	岡山大学大学院医歯薬学総合研究科	腎・免疫・内分泌代謝内科学分野		
	岡山大学大学院医歯薬学総合研究科	CKD・CVD 地域連携・心腎血管病態解析学講座	准教授	和田 淳
	岡山大学大学院医歯薬学総合研究科	糖尿病性腎症治療学講座	准教授	内田治仁
	岡山大学病院	腎臓・糖尿病・内分泌内科	助教	井上達之
	岡山大学病院	腎臓・糖尿病・内分泌内科	講師	喜多村真治
	岡山大学大学院医歯薬学総合研究科	病態制御科学専攻病態機構学講座	助教	北川正史
	岡山大学病院	腎・免疫・内分泌代謝内科学分野	大学院生(医師)	田中景子
	岡山大学病院	新医療研究開発センター	医員	菊本陽子
	岡山大学病院	医療情報部	助教	森永裕士
	岡山大学大学院医歯薬学総合研究科	慢性腎臓病対策腎不全治療学講座	助教	山成俊夫
	岡山大学病院	血液浄化療法部	講師	木野村賢
	岡山大学病院	血液浄化療法部	助教	田邊克幸
	岡山大学病院	血液浄化療法部	医員	大西章史
	岡山大学病院	血液浄化療法部	医員	秋山愛由

## 1. 研究の意義と目的

IgA 腎症は最も多い慢性腎炎であり、その予後は自然に軽快するものから、末期腎不全に至るものまで様々です。その治療法として、口蓋扁桃摘出術とステロイドパルス併用療法（扁摘ステロイドパルス療法）が有効であるとの報告が多数出てきています。しかし IgA 腎症の経過は非常に長く、その治療法が確実に有効であるとの証明は、まだされていません。当院では平成 14 年頃から扁摘ステロイドパルス療法を実施しており、その長期経過が判明しつつあります。今回その長期経過を調べて、扁摘ステロイドパルス療法の有効性や長期予後について検討します。

## 2. 研究の方法

1) **研究対象**：平成 14 年 1 月 1 日から平成 26 年 12 月 8 日までの間に岡山大学病院で腎生検を行い、IgA 腎症と診断された患者さま約 160 人。

2) **調査期間**：平成 27 年 1 月に研究倫理審査専門委員会承認後から平成 31 年 12 月 31 日まで

3) **研究方法**：上記研究対象の患者さまのカルテ情報から、扁摘ステロイドパルス療法の有無、診断時から現在までに至る病歴や臨床経過、尿・血液検査（腎機能）、腎生検の組織結果、その他の内服治療薬、透析や腎移植による治療を始められたかどうかなどについて調査を行います。診療情報をもとに腎疾患の経過や治療効果を調べます。

4) **調査票等**：研究資料にはカルテから以下の情報を抽出し使用させていただきます。あなたの個人情報には削除し匿名化し、個人情報などが漏洩しないようプライバシーの保護には細心の注意を払います。

- ・扁摘ステロイドパルス療法の有無、その他の治療内容
- ・尿蛋白と尿潜血、血清クレアチニンなど腎機能の数値
- ・腎生検の組織結果
- ・慢性透析療法や腎移植を受けられたかどうか、現在も生存されているかどうか
- ・画像での腎形態、動脈硬化の程度評価

5) **情報の保護**：調査情報は岡山大学病院腎臓内科内で厳重に取り扱います。電子情報の場合はパスワード等で制御されたコンピュータに保存し、その他の情報は施錠可能な保管庫に保存します。研究終了後、紙資料の裁断や電子情報の消去により、資料は廃棄します。調査結果は個人を特定できない形で関連の学会および論文にて発表される可能性があります。ご了承いただけない場合には研究対象としませんので、平成 27 年 5 月 20 日までの間に下記の連絡先までお申出ください。この場合も診療など病院サービスにおいて患者の皆様へ不利益が生じず、資料は廃棄いたします。

この研究にご質問等がありましたら下記までお問い合わせ下さい。ご自身やご家族が研究結果の開示を希望される場合も下記の連絡先までお申し出ください。ご家族の場合はご本人の同意が必要です。

<問い合わせ・連絡先>

岡山大学病院 腎臓内科 電話：086-235-7235 FAX：086-222-5214

氏名：杉山 斉、井上 達之、森永 裕士、北川 正史、山成 俊夫、田中 景子